

クロスアート4

ビロッキング

— 新しい居場所と手にしたもの —

2024.3.29 fri. — 6.23 sun.

開館時間：10:00-18:00 (入場は17:30まで)

夜間開館日：4月19日[金]、5月17日[金]、6月21日[金]は20:00まで(入場は閉館30分前まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

観覧料：一般1,000円(900円)、大学生800円(700円)、高校生以下無料

* ()内は20名以上の団体料金

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証の交付を受けている方とその付き添いの方(1名まで)は無料

主催：岐阜県美術館

後援：NHK岐阜放送局

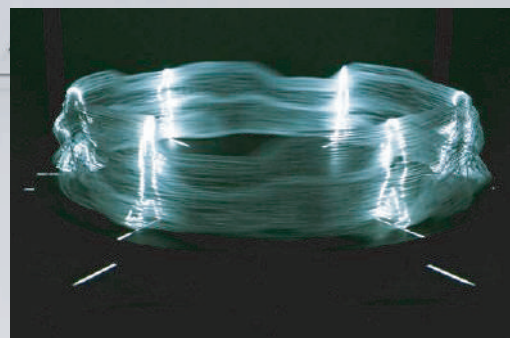
協力：KENJI TAKI GALLERY
KOTARO NUKAGA
MATSUYAMA STUDIO
nomena inc.

山内祥太
YAMAUCHI Shota

岐阜市生まれ。彫刻と映像分野で活動する中、コロナ禍で身体を晒すパフォーマンスに傾倒し、顔や皮膚、体臭などの肉体の表層をモチーフにする。



5



3

後藤映則

GOTO Akinori

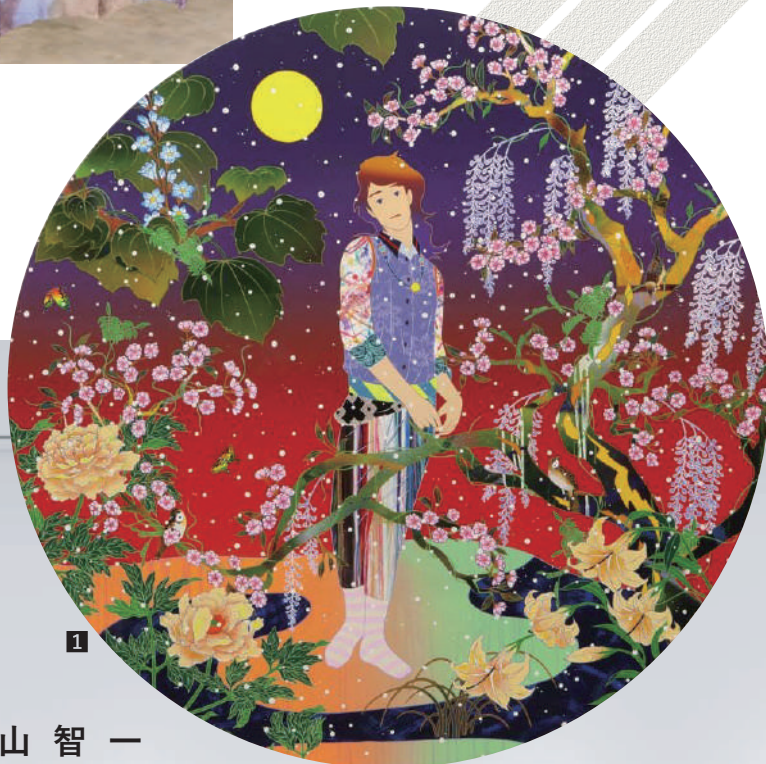
各務原市生まれ。キネティック・アートやビデオアート等の先行する動向を受け、彫刻と映像を掛け合わせながら動きや流れを浮かき上がらせる表現をする。

公花
KIMIKO

岐阜市生まれ。スペインのセビリアを拠点に、アフリカ最後の植民地支配の影響を受ける西サハラの人々が身につける民族衣装「メルブファ」を使って制作する。



2



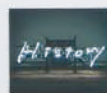
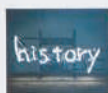
1

松山智一

MATSUYAMA Tomokazu

高山市生まれ。2002年渡米後独学で表現様式を確立。

古今東西の美術や大衆文化からサンプリングしたイメージを独自の表現で再構築した作品で世界的な評価を受ける。



4

横山奈美

YOKOYAMA Nami

羽島郡笠松町生まれ。ネオンサインや消費されていく物を見て描くという行為を通し、私たちが物に与えられた役割や制度を再考する。

1 松山智一《Unthinkable Forgiven》2018年

2 公花《砂漠の幻想的な贈り物 La sorpresa del desierto》2021年 photo: Javier Andrada

3 後藤映則《Crossing #03》2019年 photo: Timothée Lambrecq

4 横山奈美「Shape of Your Words」シリーズ photo: Hayato Wakabayashi

(展示風景「Before/After」広島市現代美術館、2023年 *本展では出品されません)

5 山内祥太《カオ1「Waterfall」》2021年 RICOH ART GALLERY photo: Koichi Takemura